平成31年3月10日＠国立国語研究所

鹿児島県肝付町
内之浦方言の動詞について

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
平成30年度 第2回研究発表会「動詞・形容詞（本土諸方言）」

髙城　隆一

（東京大学大学院 修士課程）

taki.ryuichi.0816[at]gmail.com

発表の構成

1. はじめに
   - 内之浦の紹介　・系統的位置
   - 先行研究　・調査情報　・表記
2. 動詞の活用パラダイム
   - 動詞の種類
   - 活用パラダイム
   - 分析上の問題点
3. 接辞と接語の種類
4. 形態音韻規則
   - 形態音韻規則1~8
   - 形態音韻規則の適用順序
5. まとめ

1.　はじめに

・内之浦の紹介　・系統的位置

・先行研究　・調査情報　・表記

- 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦（旧内之浦町）
- 大隅半島東岸
- 鹿児島市から南東に80km
- フェリーで約40分＋車で約1時間50分
- 人口は約3,200人

（図1）九州南部の地図

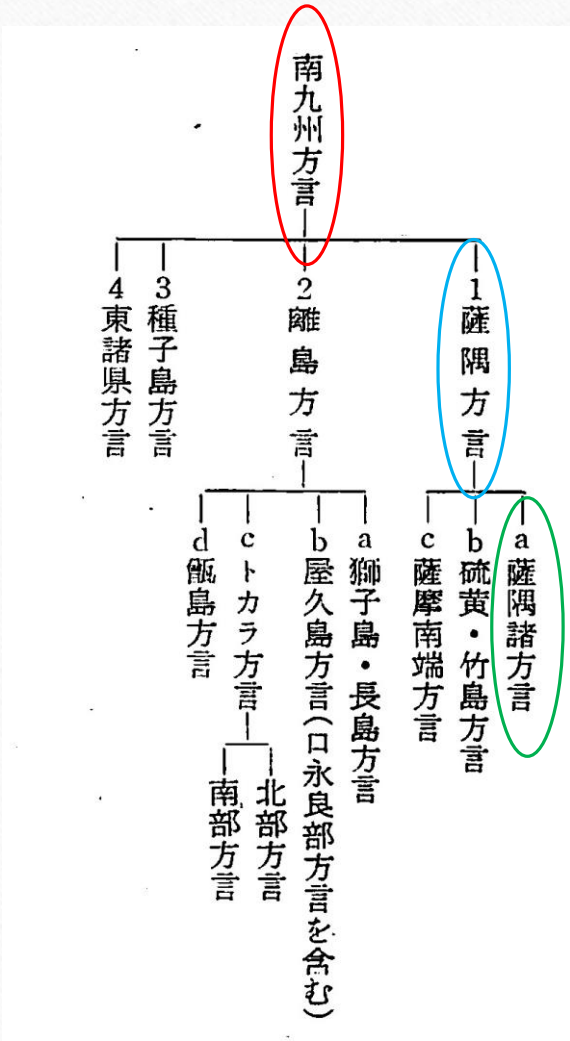
- 内之浦方言の系統的位置

上村(1964: 472)は、「南九州方言」の下位分類として「薩隅方言」、「離島方言」、「種子島方言」、「東諸県方言」を立てている(図2)。

このうち、「薩隅方言」の中には「硫黄・竹島方言」、「薩摩南端方言」と共に「薩隅諸方言」が分類されるという。

この「薩隅諸方言」には、内之浦方言を含む県本土の諸方言のほとんどが分類されている。

上村(1946)による区画は、ここまでで止まっており、「薩隅諸方言」の下位分類に関する記述は見当たらない。



(図2) 上村(1964)による薩隅方言の区画

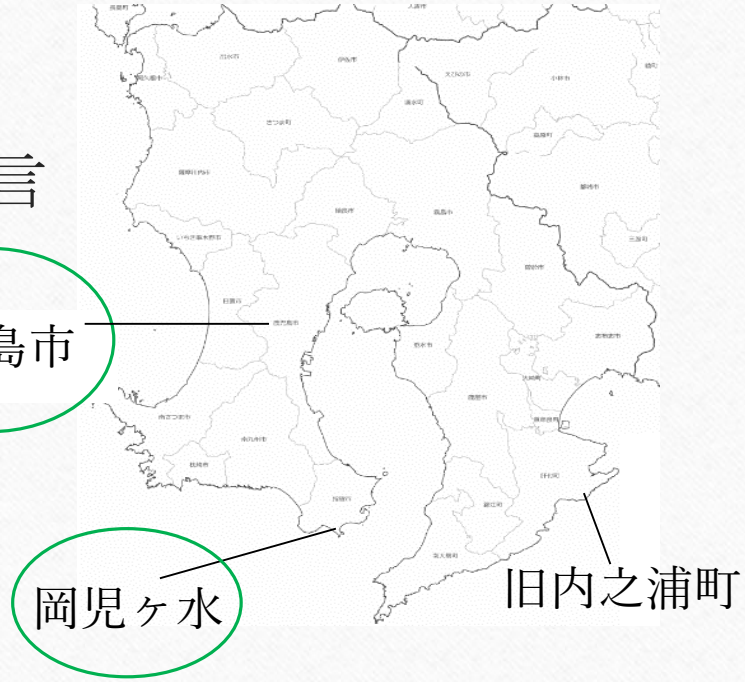
- 鹿児島県内（奄美以南は含まない）諸方言の文法記述

瀬戸口(1969) ・・・旧揖宿郡山川町大字岡児ヶ水方言（いぶすき／おかちょがみず）

後藤 (1983) ・・・鹿児島市方言が中心

森ほか編(2015)、窪薗ほか編(2019)・・・甑島里方言

（図2）甑島の位置



（図1）九州南部の地図

- 内之浦方言の先行研究

藤原(1986)・・・「発音」、「文法」、「語彙」の3部構成。本発表に関係する「文法」は助詞・助動詞の種類で項目が分けられている。

※記述としては不十分

- 話者情報

MF氏（女性）：昭和10年生まれ（84歳）

HK氏（男性）：昭和16年生まれ（78歳）

Ｙ F氏（女性）：昭和22年生まれ（72歳）

NT氏（女性）：昭和27年生まれ（67歳）

※本発表の記述は、発表者による3回（平成30年9月、平成31年1月、2月）の調査で得たデータに基づいている。

- 表記について

/s/　[s]~[ɕ]　　/z/　[z]~[ʑ]~[dz]~[dʑ]　　/c/　[tɕ]~[ts]　　/h/　[h]~[ç]~[ɸ]

/ç/　音節末摩擦音[ɕ]~[ç]　　/ɴ/　音節末鼻音[n]~[m]~[ŋ] ~[ɴ]

/Q/　声門閉鎖音[ʔ]を含む/ç/, /ɴ/以外の音節末子音（いわゆる促音音素）

- 接辞境界　　＝　接語境界　　#　語境界　　ø　ゼロ

2.　動詞の活用パラダイム

・動詞の種類

・活用パラダイム

・分析上の問題点

中央語の四段、一段、上二段、ナ変、ラ変に対応

中央語の下二段、カ変、サ変に対応

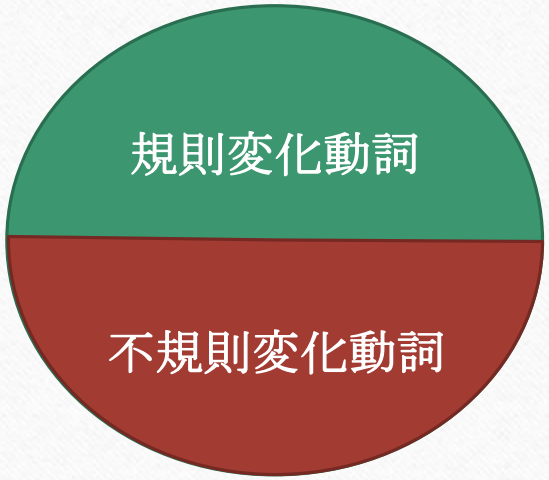
- 内之浦の動詞は、語幹の特徴により子音語幹動詞と母音語幹動詞に大別できる。

子音語幹動詞：基底形において語幹が母音で終わることがない

母音語幹動詞：基底形において語幹が母音で終わることがある

- 子音語幹動詞には、規則変化動詞が存在する。
- 母音語幹動詞には、規則変化動詞と不規則変化動詞が存在する。

（図3） 子音語幹動詞



（図4） 母音語幹動詞

（表1） 子音語幹動詞の活用表

子音語幹動詞	持つ	子音語幹動詞	持つ
過去	moQ-ta	否定	mot-aN
テ形	moQ-te	使役	mot-asuQ
中止	moQ	受身	mot-aruQ
終止・連体	moQ	命令	mot-e
推量	moQ=do=dai	意志	mot-o=kai
禁止	moQ-na	条件	mot-eba

（表2） 母音語幹（規則変化）動詞の活用表

母音語幹動詞	開ける	母音語幹動詞	開ける
過去	ake-ta	否定	ake-N
テ形	ake-te	使役	ake-sasuQ
中止	ake-Q	受身	ake-raruQ
終止・連体	akuQ	命令	aki
推量	akuQ=do=dai	意志	aku=kai
禁止	akuQ-na akuN-na	条件	aku-reba

（表3） 母音語幹（不規則変化）動詞の活用表

不規則変化動詞	来る	不規則変化動詞	来る
過去	ki-ta	否定	ko-N
テ形	ki-te	使役	ki-sasuQ
中止	ki-Q	受身	ko-raruQ
終止・連体	kuQ	命令	ki
推量	kuQ=do=dai	意志	ku=kai
禁止	kuQ-na kuN-na	条件	ku-reba

- 分析上の問題点

表層形のみを分析すると語幹の数が多くなる

→基底形を立てて形態音韻規則（4節）で活用形を導くことで削減

（表4a） 子音語幹動詞の語幹

動詞	持つ	書く	起きる	消す
語幹	mot-, moQ-	kak-, ke-, kaQ-	okir-, okiQ-, okiN-	kes-, kese-, keç-

（表5a） 母音語幹動詞の語幹

動詞	開ける	くれる	する	来る
語幹	ake-, aki-, aku-, akuN-, akur-, akuQ-	kure-, kuri-, kuru-, kuruN-, kurur-, kurQ-	se-, si-, su-, s-, suQ-, suN-, sur-	ko-, ki-, ku-, kuQ-, kuN-, kur-

- 分析上の問題点

表層形のみを分析すると語幹の数が多くなる

→基底形を立てて形態音韻規則（4節）で活用形を導くことで削減

（表4b） 子音語幹動詞の語幹（基底形あり）

動詞	持つ	書く	起きる	消す
語幹	mot-	kak-	okir-	kes-

（表5b） 母音語幹動詞の語幹（基底形あり）

動詞	開ける	くれる	する	来る
語幹	ake-, aku(r)-	kure-, kuru(r)-	se-, si-, su(r)-, s-	ko-, ki-, ku(r)-

3.　接辞と接語の種類

（表5） 接辞と接語の種類

	接辞・接語		接辞・接語	
	-ta		-N	
	-te	使役	-sasur-	
中止	-Q	受身	-rarur-	
終止・連体	-ø	命令	-e	-i
推量	=do=dai		kai	-u=kai
禁止	-na		-reba	

終止は終助詞=doを伴うことが多い。

継起の意味を-Qsae～-Qseeで表せる。

=daiは人から聞いたことに基づく推量にしか使えず、ただの想像のときには=de:を使う。（話者HK氏談）

（表5） 接辞と接語の種類

	接辞・接語		接辞・接語	
過去	-ta	否定	-N	
テ形	-te	使役	-sasur-	
中止	-Q	受身	-rarur-	
終止・連体	-ø	命令	-e	-i
推量	=do=dai	意志	-o=kai	-u=kai
禁止	-na	条件	-reba	

子音（で終わる）語幹につくときには、子音連続の制限により頭子音が削除される。

子音語幹につくときには、子音連続の制限によりaが挿入され-aNとなる。

（表5） 接辞と接語の種類

	接辞・接語		接辞・接語	
過去	-ta	否定	-N	
テ形	-te	使役	-sasur-	
中止	-Q	受身	-rarur-	
終止・連体	-ø	命令	-e	-i
推量	=do=dai	意志	-o=kai	-u=kai
禁止	-na	条件	-reba	

辞と接語の種類

「する」は使役と受身では、s-が語幹であるため、子音語幹動詞と同じく頭子音が削除される。
s-asur > s-asuQ（する-CAUS）
s-arur > s-aruQ（する-PASS）

			接辞・接語	
		否定	-N	
		使役	-sasur-	
中止	-Q	受身	-rarur-	
終止・連体	~	命令	-e	-i
推量		意志	-o=kai	-u=kai
禁止		条件	-reba	

条件は表層形では
-(r)eba~-(r)eja~-(r)ea
で揺れがある。

（表5） 接辞と接語の種類

	接辞・接語		接辞・接語	
過去				
テ形				
中止				
終止・連体	-ø	命令	-e	-i
推量	=do=dai	意志	-o=kai	-u=kai
禁止	-na	条件	-reba	

子音語幹・母音語幹共に母音接辞！

- 命令と意志では、子音語幹・母音語幹共に母音接辞が接続されるが、その母音はそれぞれ異なる。

狭母音[+high]

非狭母音[-high]

（表6a） 命令と意志の接辞

	命令	意志
母音語幹動詞	-i	-u=kai
子音語幹動詞	-e	-o=kai

- 鹿児島市方言では（内之浦方言と異なり）、子音語幹・母音語幹共に同じ母音接辞が接続される。

（表6b） 命令と意志の接辞（鹿児島市方言との対比）

	命令		意志	
地点名	内之浦	鹿児島	内之浦	鹿児島
母音語幹動詞	-i	-e	-u=kai	-okai
子音語幹動詞	-e		-o=kai	

（鹿児島市方言のデータは、木部先生よりご提供いただいた。）

4.　形態音韻規則

・形態音韻規則1~8

・形態音韻規則の適用順序

形態音韻規則1:母音の逆行同化

- 二重母音V_1V_2においてV_1が/u, e, o/のいずれか(非広母音)であり、且つV_2が/i/であるとき、V_1をV_2に逆行同化させる。

ak**e**-**i** > ak**i**-**i**(開ける-IMP), k**o**-**i** > k**i**-**i**(来る-IMP)

※参考:kjak**u**-**i** > kjak**i**-**i**(客-DAT)

形態音韻規則2:前舌長母音の短母音化

- 前舌の長母音/ii, ee/を短母音化させる。

ake-i > ak**i**-**i** > ak**i**(開ける-IMP), ko-i >k**i**-**i** > k**i**(来る-IMP)

※参考:kjaku-i >kjak**i**-**i** > kjak**i**(客-DAT)

形態音韻規則3:接辞の有声化

- 有声閉鎖音及び鼻音の直後で、接辞の頭子音を有声化させる。

（表7） 形態音韻規則3の適用例

動詞	漕ぐ	死ぬ	飲む	飛ぶ
語幹	kog-	sin-	nom-	tub-/tob-
過去-ta	kog-ta > kog-da	sin-ta > sin-da	nom-ta > nom-da	tub-ta > tub-da
テ形-te	kog-te > kog-de	sin-te > sin-de	nom-te > nom-de	tub-te > tub-de

形態音韻規則3:接辞の有声化

- 有声閉鎖音及び鼻音の直後で、接辞の頭子音を有声化させる。

鹿児島市方言*
でもみられる。

（表7） 形態音韻規則3の適用例

	漕ぐ	死ぬ	飲む	飛ぶ
語幹	kog-	sin-	nom-	tub-/tob-
過去-ta	kog-ta > kog-da	sin-ta > sin-da	nom-ta > nom-da	tub-ta > tub-da
テ形-te	kog-te > kog-de	sin-te > sin-de	nom-te > nom-de	tub-te > tub-de
進行・完了 -cjor-	kog-cjor > kog-zjor	sin-cjor > sin-zjor	nom-cjor > nom-zjor	tob-cjor > tob-zjor

*木部先生よりデータをご提供いただいた。

形態音韻規則4：母音間wの脱落

- 非広母音に挟まれたwを脱落させる。

mor**ow**-**o** > mor**o**-**o**（もらう-VOL）, **kuw**-**e** > k**u**-**e**（食う-IMP）,

k**ow**-**e**ba > k**o**-**e**ba（買う-COND）

k**ow**-**a**N > *k**o**-**a**N（買う-NEG）

【修正点】
・morrow-oの接辞oを赤字＋太字
・kow-aNの前の*を削除

形態音韻規則5：語幹末子音の交替

- 語幹に接辞や接語が後続することで下記の①~②に該当するとき、形態音韻規則5-1～5-3のいずれかに従って語幹末子音を交替させる。

規則5-1

①子音連続が発生するとき

・・・oki**r**-**t**a > oki**Q**-**t**a (起きる-PST)

規則5-2

・・・ oki**r**=**g**a > oki**i**=**g**a (起きる=SFP)

②語末に子音が立つとき

規則5-3

・・・no**m**-ø > no**m** # > no**N** # (飲む-NPST)

過去、テ形、中止、進行・完了の総称として用いる。

形態音韻規則5-1：語幹末子音の交替（連用形）

- r, t → Q　k, g → i　s → se　n, m → N　w → u　b → u~N

（表8a）　形態音韻規則5-1の適用例1

動詞	起きる	持つ	書く	漕ぐ	消す
語幹	okir-	mot-	kak-	kog-	kes-
過去-ta	oki**r**-ta > oki**Q**-ta	mo**t**-ta > mo**Q**-ta	ka**k**-ta > ka**i**-ta	ko**g**-da > ko**i**-da	ke**s**-ta > ke**se**-ta
テ形-te	oki**r**-te > oki**Q**-te	mo**t**-te > mo**Q**-te	ka**k**-te > ka**i**-te	ko**g**-de > ko**i**-de	ke**s**-te > ke**se**-te
中止-Q	oki**r**-Q > oki**Q**-Q	mo**t**-Q > mo**Q**-Q	ka**k**-Q > ka**i**-Q	ko**g**-Q > ko**i**-Q	ke**s**-Q > ke**se**-Q
進行・完了 -cjor-	oki**r**-cjor > oki**Q**-cjor	mo**t**-cjor > mo**Q**-cjor	ka**k**-cjor > ka**i**-cjor	ko**g**-zjor > ko**i**-zjor	ke**s**-cjor > ke**se**-cjor

過去、テ形、中止、進行・完了の総称として用いる。

形態音韻規則5-1：語幹末子音の交替（連用形）

- r, t → Q　k, g → i　s → se　n, m → N　w → u　b → u~N

（表8b）形態音韻規則5-1の適用例2

動詞	死ぬ	飲む	買う	飛ぶ
語幹	sin-	nom-	kow-	tub-/tob-
過去-ta	sin-da > siN-da	nom-da > noN-da	kow-ta > kou-ta	tub-da > tuu-da
テ形-te	sin-de > siN-da	nom-de > noN-de	kow-te > kou-te	tub-de > tuu-de
中止-Q	sin-Q > siN-Q	nom-Q > noN-Q	kow-Q > kou-Q	tub-Q > tuu-Q
進行・完了-cjor-	sin-zjor > siN-zjor	nom-zjor > noN-zjor	kow-cjor > kou-cjor	tob-zjor > toN-zjor *tub-zjor > *tuu-zjor

形態音韻規則5-2：語幹末子音の交替（勧誘、可能）

- r → i / _ g

（表9） 形態音韻規則5-2の適用例

動詞	起きる	寝る	開ける	する	来る
語幹	okir-	ner-	ake-, aku(r)-	se-, si-, su(r)-, s-	ko-, ki-, ku(r)-
勧誘=ga	okir=ga > okii=ga	ner=ga > nei=ga	akur=ga > akui=ga	sur=ga > sui=ga	kur=ga > kui=ga
可能=ga=nar	okir=ga=nar > okii=ga=nar	ner=ga=nar > nei=ga=nar	(ake=ga=nar)	(si=ga=nar)	(ki=ga=nar)

形態音韻規則5-3：語幹末子音の交替（その他の環境）

- r, k, g, t → Q　　s → ç　　n, m → N　　b → Q~N　　w → u

（表10a）　形態音韻規則5-3の適用例1

動詞	起きる	書く	漕ぐ	持つ	消す
語幹	okir-	kak-	kog-	mot-	kes-
終止・連体-ø	okir > okiQ	kak > kaQ	kog > koQ	mot > moQ	kes > keç
推量=do=dai	okir=do=dai > okiQ=do=dai	kak=do=dai > kaQ=do=dai	kog=do=dai > koQ=do=dai	mot=do=dai > moQ=do=dai	kes=do=dai > keç=do=dai
禁止-na	okir-na > okiQ-na	kak-na > kaQ-na	kog-na > koQ-na	mot-na > moQ-na	kes-na > keç-na

形態音

- r, k, g,

※「起きる」のように、禁止の接辞-naに接続する語幹がrで終わる動詞（「寝る」、「開ける」、「くれる」、「する」、「来る」など）ではokiQ-na~okiN-naのように促音と撥音の揺れが見られる。

例）neQ-na~neN-na（寝る-PROH），akuQ-na~akuN-na（開ける-PROH），…

動詞					
語幹	oki		kog-	mot-	kes-
終止・連体-ø	oki**r** > o	**k** > ka**Q**	ko**g** > ko**Q**	mo**t** > mo**Q**	ke**s** > ke**ç**
推量=do=dai	oki**r**=do= oki**Q**=do	ka**k**=do=dai > ka**Q**=do=dai	ko**g**=do=dai > ko**Q**=do=dai	mo**t**=do=dai > mo**Q**=do=dai	ke**s**=do=dai > ke**ç**=do=dai
禁止-na	oki**r**-na > oki**Q**-na	ka**k**-na > ka**Q**-na	ko**g**-na > ko**Q**-na	mo**t**-na > mo**Q**-na	ke**s**-na > ke**ç**-na

形態音

- r, k, g,

※「起きる」などにおいて、r-に由来する語幹末のQ-にはi-との揺れが見られる（ただし、終助詞=doが接続しないとき）。

例）okiQ~okii（起きる.ADN），mot-asuQ~mot-asui（持つ-CAUS），neQ=do~*nei=do（寝る.NPST=SFP），…

動詞					
語幹	okir	kak-	kog-	mot-	kes-
終止・連体-ø	okir > okiQ	kak > kaQ	kog > koQ	mot > moQ	kes > keç
推量=do=dai	okir=do=dai > okiQ=do=dai	kak=do=dai > kaQ=do=dai	kog=do=dai > koQ=do=dai	mot=do=dai > moQ=do=dai	kes=do=dai > keç=do=dai
禁止-na	okir-na > okiQ-na	kak-na > kaQ-na	kog-na > koQ-na	mot-na > moQ-na	kes-na > keç-na

形態音韻規則5-3：語幹末子音の交替（その他の環境）

- r, k, g, t → Q　　s → ç　　n, m → N　　b → N~Q　　w → u

（表10b） 形態音韻規則5-3の適用例2

動詞	死ぬ	飲む	飛ぶ	買う
語幹	sin-	nom-	tub-/tob-	kow-
終止・連体-ø	sin > siN	nom > noN	toN/toQ tuN/tuQ	kow > kou
推量=do=dai	sin=do=dai > siN=do=dai	nom=do=dai > noN=do=dai	toQ=do=dai *tuQ=do=dai	kow=do=dai > kou=do=dai
禁止-na	sin-na > siN-na	nom-na > noN-na	toQ-na/tuQ-na	kow-na > kou-na

- 木部(2001: 43)

鹿児島市を中心とする鹿児島の主流方言では, **狭母音音節が語頭以外の位置でことごとく変化する**。変化のしかたには規則性があり, 当該音節の子音の種類によって, 以下のように決まっている。

（太字・下線は発表者による）

(1) 破裂音 (ki, ku, gi, gu, tʃi, tsu, dʒi, dzu, bi, bu) の場合は声門閉鎖音。

[kaʔ]（柿），[aʔ]（灰汁），[kuʔ]（釘），

[ojoʔ]（泳ぐ），[kuʔ]（口），[kuʔ]（靴），

[aʔ]（味），[miʔ]（水），[kuʔ]（首），[toʔ]（飛ぶ）

(2) 鼻音 (ɲi, nu, mi, mu) の場合は撥音。ただし，ɲi は語彙的に[i̯]になる。

[taN], [tai̯]（谷），[iN]（犬），[moN]（物），

[kaN]（紙），[aN]（編む）

木部(2001: 43)

(3) 弾き音 (ri, ru) の場合は[i̯]。ただし，動詞語尾の ru は声門閉鎖音になることもある。

[mai̯] (鞠)，[çiː] (昼)，[aʔ], [ai̯] (ある)

(4) 摩擦音 (ʃi, su, ʒi, zu, çi, ɸu) の場合は母音脱落形。

[kwaʃ] (菓子)，[us] (臼)，[kwaʃ] (火事)

[kas] (数)

木部(2001: 43)

1. 語頭以外の位置で**狭母音に無声化**が起きる。
2. 無声化がさらに進むと、**狭母音の脱落**が引き起こされる。
3. 狭母音の脱落のあとに**子音が残る**。
4. 残った子音はその**音声特徴により声門閉鎖音や撥音、[i̥] に変化する**。

（木部(2001:43)を基に発表者が整理した）

1. 語頭以外の位置で
2. 無声化がさらに進む
3. 狭母音の脱落のあとに子音が残る
4. 残った子音はその音声特徴により声門閉鎖音や撥音、[i̥] に変化する。

木部(2001)で述べられているのは通時的な現象だが、4の現象は「語幹末子音の交替規則」と関連がありそう。

（木部(2001:43)を基に発表者が整理した）

【修正点】
・吹き出し中の「5の現象」を「4の現象」に修正

形態音韻規則6：音節末子音連続の削除

- 形態音韻規則の適用により、音節末子音の連続C_1C_2が生じたとき、C_2を削除する。

nom-Q > no**N**-**Q** > no**N**（飲む-ADVL）

okir-Q > oki**Q**-**Q** > oki**Q**（起きる-ADVL）

形態音韻規則7：母音の順行同化

- 二重母音V_1V_2においてV_2をV_1に順行同化させる。

ner=ga > nei=ga > ne:=ga（寝る=SFP）

形態音韻規則8：母音の融合

- 二重母音は下記のように融合する。

kak-ta > k**ai**-ta > k**e**-ta（書く-PST）

kow-ta > k**ou**-ta > k**o**-ta（買う-PST）

kow-o > k**oo** > k**o**（買う-VOL）

tub-ta > tub-da > t**uu**-da > t**u**-da（飛ぶ-PST）

形態音韻規則8：母音の融

- 二重母音は下記のように融

kak-ta > kai-ta > ke-ta（書

kow-ta > kou-ta > ko-ta（買う-PS

kow-o > koo > ko（買う-VOL）

tub-ta > tub-da > tuu-da > tu-da（飛ぶ-PST）

※仮に語幹末子音の交替規則
kow-o > kou-o
を適用すると、ここでのみ 2回の母音融合
kou-o > ko-o　　ko-o > ko
を認めることが必要になる。

- 下地(2016)によると、宮崎県椎葉村尾前方言では、母音連続**oi**は母音融合規則によって**ee**に変化する。

（表11）　尾前方言のテ形の形成にかかる形態音韻規則（母音融合まで）とその適用

	基底	有声化	語根末子音交替	母音融合
「干して」	//hos-te//	N/A	h**oi**te	h**ee**te
「溶いて」	//tok-te//	N/A	t**oi**te	t**ee**te

下地(2016)の表3の一部を抜粋。一部書式を変更した。

- 下地(2016)によると、宮崎県椎葉村尾前方言では、母音連続**oi**は母音融合規則によって**ee**に変化する。

（表11）　尾前方言のテ形の形成にかかる形態音韻規則（母音融合まで）とその適用

	基底	有声化	語根末子音交替	母音融合
「干して」	//hos-te//	N/A	h**oi**te	h**ee**te

内之浦方言で「漕ぐ」のテ形は
kog-te > kog-de > koi-de（漕ぐ-CTX）である。
***kee-de,* ke-de, *ki-de**

形態音韻規則の適用順序

母音に関する形態音韻規則

規則1:母音の逆行同化

規則2:前舌長母音の短母音化

規則7:母音の順行同化

規則8:母音の融合

子音に関する形態音韻規則

規則3:接辞の有声化

規則4:母音間wの脱落

規則5:語幹末子音の交替

規則6:音節末子音連続の削除

②⑤
⑦⑦

形態音韻規則の適用順序

- ner=ga > nei=ga > ne:=ga > *ne=ga（寝る=SFP）から下記の適用順序が決定できる。

ner=ga

②前舌長母音の短母音化

⑤語幹末子音の交替 **nei=ga**

⑦母音の順行同化 **ne:=ga**

***ne=ga**

（⑤などは規則番号を表す。）

①
⑤②②⑤
⑥　⑦⑦

形態音韻規則の適用順序

- ake-i > aki-i > aki（開ける-IMP）などから下記の適用順序が決定できる。

	ake-i
①母音の逆行同化	**aki-i**
②前舌長母音の短母音化	**aki**

- nom-Q > noN-Q > noN（飲む-ADVL）などから下記の適用順序が決定できる。

	nom-Q
⑤語幹末子音の交替	**noN-Q**
⑥音節末子音連続の削除	**noN**

①
④ ⑤ ② ② ⑤
⑧ ⑥ ⑦ ⑦

形態音韻規則の適用順序

- kow-o > koo > ko（買う-VOL）などから下記の適用順序が決定できる。

	kow-o
④母音間wの脱落	**ko-o**
⑧母音の融合	**ko**

①③　　①
⑤⑤④⑤②②⑤
⑧⑧⑧⑥　⑦⑦

形態音韻規則の適用順序

- kak-te > kai-te > ke-te（書く-CTX）と kog-te > kog-de > koi-de > *ki-de（漕ぐ-CTX）から下記の適用順序が決定できる。

	kak-te	**kog-te**
①母音の逆行同化		
③接辞の有声化		**kog-de**
⑤語幹末子音の交替	**kai-te**	**koi-de**
⑧母音の融合	**ke-te**	
		***ki-de**

形態音韻規則の適用順序

(適用が)早い

①母音の逆行同化　③接辞の有声化

②前舌長母音の短母音化　④母音間wの脱落　⑤語幹末子音の交替

⑦母音の順行同化　⑧母音の融合　⑥音節末子音連続の削除

(適用が)遅い

※今年度の調査結果から順序が確定できなかったものは、規則同士を横並びにして示している。

5.　まとめ

5. まとめ

- ✓今年度実施した調査により得たデータを基に、内之浦方言の動詞活用パラダイムを示した。
- ✓語幹の種類によらず母音接辞である命令接辞と意志接辞は、語幹の種類によって異なる母音が使用されることを明らかにした。
- ✓形態音韻規則を設定し、基底形から表層形が導けることを示した。

謝辞

本発表では、下記の助成を受けて実施した調査により得たデータの一部を使用している。

- 国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（プロジェクトリーダー：木部暢子）
- JSPS科研費17H02332「比較言語学的方法による日本語・琉球諸語諸方言の祖語の再建および系統樹の構築」（研究代表者：五十嵐陽介）

謝辞

本発表の準備に際し、下記の方々からご協力・ご助言等を賜った。

- 内之浦方言の話者の方々
- 肝付町教育委員会
- 公益社団法人肝付町シルバー人材センター
- 木部暢子先生、黒木邦彦先生、大槻知世さん、占部由子さん、カルリノ・サルバトーレさん他、所属研究室内外の先生方・先輩方

- 略語一覧

ABL：奪格

ACC：対格

ADN：連体

ADVL：連用

CAUS：使役

COND：条件

CTX：文脈依存

DAT：対格

IMP：命令

NEG：否定

NPST：非過去

PASS：受動

PROH：禁止

PST：過去

SFP：終助詞

TOP：主題

VOL：意志

使用した調査票

大西拓一郎編 (2002)『方言文法調査ガイドブック』科学研究費補助金研究成果報告書 科学研究費基盤研究「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」.

国立国語研究所「用言活用調査票（隠岐の島調査2016編）」.

国立国語研究所「用言活用調査票」（本プロジェクト用）.

参照文献

有元光彦 (2007)『九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究』東京：ひつじ書房.

上村孝二 (1964)「薩隅方言の区画」日本方言研究会 (編)『日本の方言区画』459-474. 東京：東京堂.

木部暢子 (2001)「鹿児島市方言に見られる音変化について」『音声研究』5(3): 42-48.

九州方言学会 (編) (1969)『九州方言の基礎的研究』東京：風間書房.

窪薗晴夫・木部暢子・高木千恵 (編) (2019)『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』東京：くろしお出版.

後藤和彦 (1983)「鹿児島県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編)『講座方言学』9: 295-326. 東京：国書刊行会.

下地理則 (2016)「音素論と形態音韻論の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日 (編)『尾前調査班 中間報告書：宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説』東京：国立国語研究所.

参照文献

瀬戸口俊治 (1969)「語形態」九州方言学会 (編) (1969)『九州方言の基礎的研究』東京：風間書房.

藤原与一 (1986)『九州東部域三要地方言：大分県朝来方言・宮崎県村所方言・鹿児島県内之浦方言』東京：三弥井書店.

森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦 (編) (2015)『甑島里方言記述文法書』大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」サブプロジェクト「鹿児島県甑島の限界集落における絶滅 危機方言のアクセント調査研究」東京：国立国語研究所.

肝付町「平成27年国勢調査人口等基本集計結果」

https://kimotsuki-town.jp/chosei/tokei/1/2638.html（最終閲覧：平成31年1月29日）

国土地理院「地理院地図(電子国土Web)
https://maps.gsi.go.jp/#9/31.618305/130.624695/&base=blank&ls=blank&disp=1&lcd=blank&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1（最終閲覧：平成31年3月8日）